

台湾輸出牛肉施設一覧

1	〔〕北海道畜産公社道央事業所早来工場早来食肉流通センター ／〔〕北海道畜産公社道央事業所早来工場
2	〔〕北海道畜産公社道東事業所北見工場北見地区総合食肉流通センター
3	〔〕北海道畜産公社道東事業所十勝工場十勝総合食肉流通センター
4	〔〕北海道畜産公社道央事業所上川工場上川総合食肉流通センター ／〔〕北海道畜産公社道央事業所上川工場
5	〔〕岩手畜産流通センター
6	秋田県食肉流通センター／〔〕秋田県食肉流通公社
7	山形県総合食肉流通センター／〔〕山形県食肉公社
8	米沢市営と畜場
9	和光ミートセンター／〔〕アグリス・ワン和光ミートセンター牛肉加工室
10	越谷食肉センター／IHミートパッカー〔〕東京ミートセンター
11	〔〕山梨食肉流通センター
12	飛騨食肉センター／飛騨ミート農業協同組合連合会
13	滋賀食肉センター
14	和牛マスター食肉センター
15	神戸市立食肉センター／ケイ・ピー・シー
16	徳島市立食肉センター／〔〕フジミツハセガワ
17	〔〕にし阿波ビーフ
18	福岡市中央卸売市場食肉市場
19	日本フードパッカー〔〕諫早工場
20	〔〕大分県畜産公社
21	〔〕熊本畜産流通センター
22	〔〕ミヤチク高崎工場
23	〔〕ミヤチク都農工場
24	サンキョーミート〔〕霧島ミート工場
25	〔〕ナンチク
26	サンキョーミート〔〕有明ミート工場
27	〔〕阿久根食肉流通センター／スターゼンミートプロセッサー〔〕阿久根工場
28	〔〕JA食肉かごしま南薩工場
29	〔〕ジャパンファーム大口処理工場／日本フードパッカー〔〕鹿児島〔〕

※と畜場と食肉処理場を合わせて1施設と数える

台湾向け牛肉の輸出が22日再開、16道県から29施設を承認
 農水省はこのほど、台湾が日本産牛肉輸出施設(29施設)の承認を行ったと発表した。これにより、22日から台湾向けの日本産牛肉の輸出が可能となった。
 農水省は平成16年6月以降、厚労省と連携して、台湾政府当局との間で、日本産牛肉輸出のための協議を進めてきた。22日、台湾衛生福利部食品薬物管理署が日本産牛肉輸出施設について審査を終了し、29施設を承認。日本側の申請した施設すべてが承認された形となった。また、厚生労働省が「対台湾輸出牛肉取扱要綱」を定め、同日、都道府県に対して通知することにより輸出が可能となった。
 主な輸出条件は①厚労省が認定し、台湾政府当局が承認した食肉処理施設に由来する牛肉であること②月齢30カ月未満の牛に由来することなど。
 過去の台湾への輸出量は1997年が2億4千万円(23・1t)、1998年が2億2700万円(21・9t)、1999年が1億9600万円(19・4t)。なお香港の1998年の牛肉輸出量が2億3千万円(31・0t)で、2016年には40億1700万円(659・2t)に拡大していることから台湾も同様の拡大となるか注視される。また台湾は昨年の訪日旅行者数が400万人を超えており、日本産牛肉の有力な輸出先として期待されている。